TAMABI NEWS 76

2018

1 アートがビジネスを超える時代

↓開発好明「モグラTV」

2 枠を超えて活躍する卒業生

芦沢ムネト 夢眠ねむ ほか

アートがビジネスを超える時代

――アートに新しい価値を見いだす街や企業――

このところアートを中心とした話題に事欠かない。意外な場所で作品を見かけることも増えた。商業施設の集客や町おこし、企業のブランディングなど、成熟化した日本の社会で、存在感を際立たせ差別化を図るために、新しい価値を生みだす力を持ったアートに注目が集まっている。今回は、そんな社会との接点として機能するパブリックアートに注目し、卒業生の作品を通してその潮流を垣間見たい。

東京駅前の地下空間が学生ら作品の展示会場に

行幸地下ギャラリー

話題の複合施設がアートを集客の要に

虎ノ門ヒルズ

アートでもてなす ラグジュアリーホテル

フォーシーズンズホテル京都

一部上場企業のオフィスがアートで企業の精神性を表現

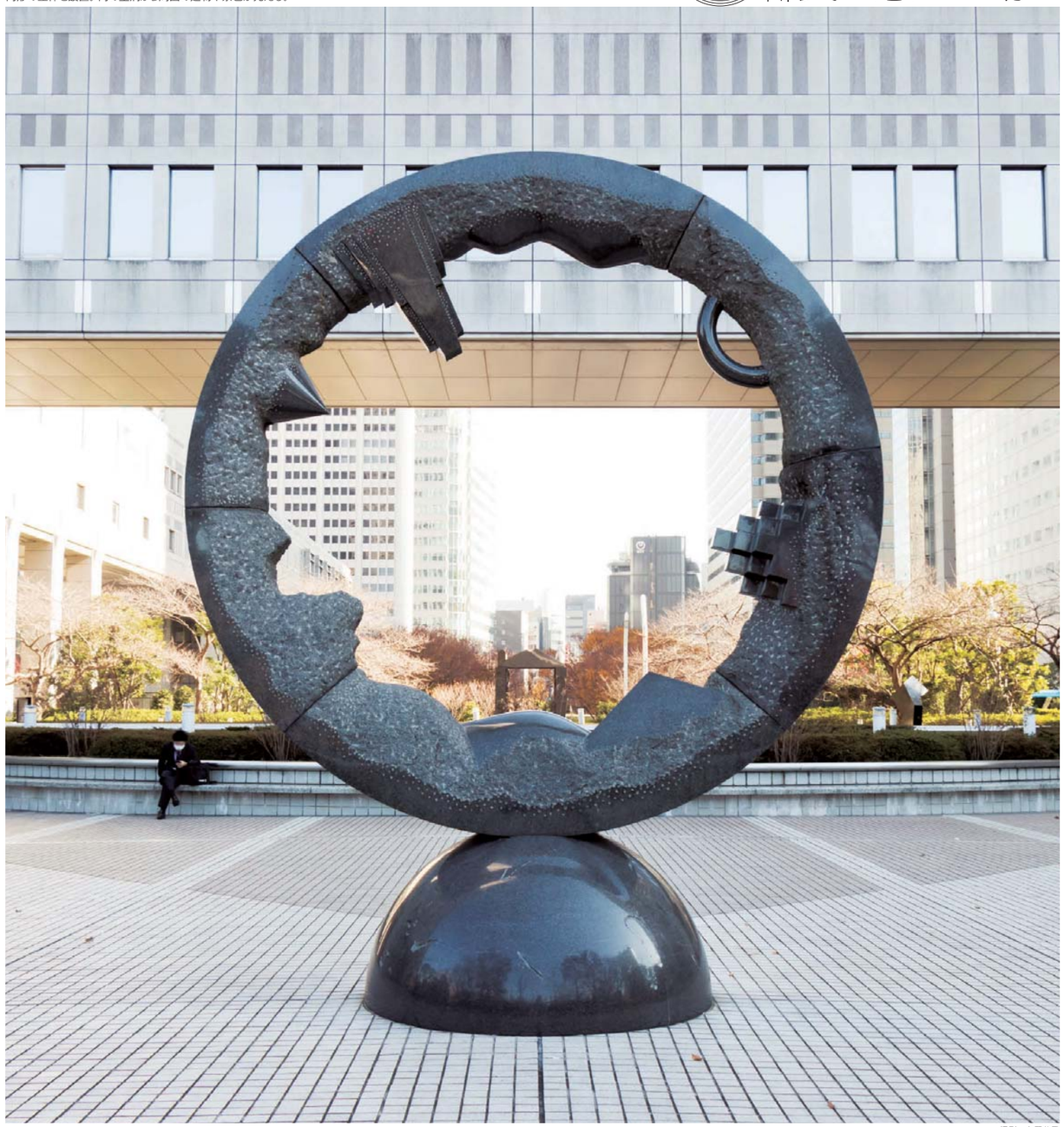
ベプチドリーム株式会社

東京都庁［庁舎・新宿］

関根伸夫（68年 大学院油画修了）｜「空の台座」91年設置

周囲の景観を採り入れた彫刻　直線が特徴的な建物とコントラストを描くかのように円形の立体を設置。円の空洞から周囲の建物や景色が見える。

無機質な空間が都民の憩いの場に

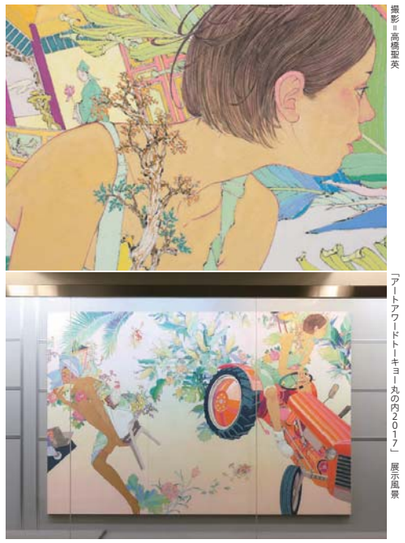


撮影＝上原芳子

虎ノ門ヒルズ［複合施設・虎ノ門］

内海聖史（02年 大学院油画修了）｜「あたらしい水」14年設置

鏡と共に見せる日本の四季　日本の四季を連想させる絵画５点で構成。鏡も設置され、立つ場所によって絵画はさまざまな顔つきを見せる。



撮影＝高橋聖英

「アートアワードトーキョー丸の内2017」展示風景

行幸地下ギャラリー

［地下通路・丸の内］

奥村彰一（17年 大学院日本画修了、日本画副手）

「連年豊作吉祥図」17年設置

ビジネス街で若手アート展　昨年のアワードは2500点以上の中から114点をノミネートして展示。日本有数のビジネス街・丸の内を彩った。

ペプチドリーム株式会社［本社ビル・神奈川］

廣瀬智央（89年 グラフィックデザイン卒業）

「PDPS」「ビーンズコスモス」「ブルードローイング」17年設置

空間全体をインスタレーション　入口や庭など敷地内の随所に作品を設置。企業理念に賛同し、その特質をアートによって具現化しようと努めた。

Installation view at PeptiDream Inc., Kanagawa, Japan, 2017 ©Hirose Satoshi photo by Ken Kato
art produce：TAK PROPERTY INC. Design & Art Division（P2、5）

フォーシーズンズホテル京都［ホテル・京都］

神戸智行（01年 大学院日本画修了）｜16年設置

静謐な空間と調和する絵画　下地に箔を貼りめぐらせ、その上に彩色と極薄の和紙、また彩色を施す。その作業を繰り返して生まれた絵画だ。

1 集客の要として注目されるアート

GINZA SIX［複合商業施設・銀座］

堂本右美（85年 油画卒業）｜《民》17年設置

他のフロアにも行きたくなる絵画　絵画は３点あり、３階から５階までの各階に１点ずつ設置。いずれも躍動感のあるフォルムが特徴的で目を奪う。

撮影＝加藤 健

パブリックアートが担ってきた役割

東京都庁［庁舎・新宿］

関根伸夫（68年 大学院油画修了）

「水の神殿」91年設置

周囲の環境と一体化したアート　春には桜、秋には紅葉など周辺の樹木と共に成り立つ彫刻。環境の中でアートを生かそうとする試みだ。

撮影＝上原芳子

広島空港［空港・広島］

岡本敦生（77年 大学院彫刻修了、工芸非常勤講師）

「地球・一個の球体のために」93年設置

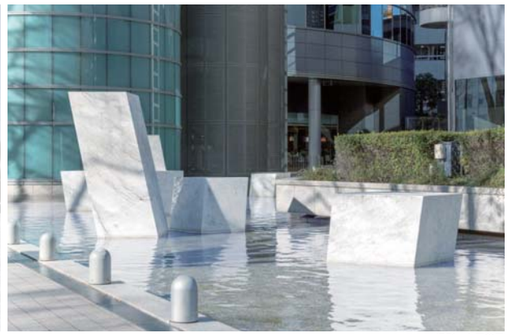
世界の各都市、北極・南極へと向かう　広場に設置された円柱には向かう先の地名と距離を刻印。夜間はライトアップされ、昼間とは異なる顔つきを見せる。

新宿アイランド［複合施設・新宿］

長澤英俊（63年 図案〈立体インテリア〉卒業、油画客員教授）

「プレアデス」94年設置

水面と大理石の清涼感　「プレアデス」はギリシャ神話に登場する７姉妹のこと。７つの大理石の配置はスバル座の形も彷彿させる。



撮影＝上原芳子

作品の個性が場の品格を創り上げる

美術館やギャラリーだけが作品の展開の場とは限らない。近年、大型の複合施設がオープンするたび、そこに設置されるアート作品のニュースを目にすることが、もはや当たり前となった。先立つ例として、2003年に開業した六本木ヒルズがある。敷地内には森美術館や屋外作品も多くあり、鑑賞目的の訪問者で今もにぎわう。

この成功の後に登場したのが2014年にオープンした虎ノ門ヒルズ。ホテルにオフィス、住宅、店舗や飲食店などが同居するこの複合施設にはアート作品も多く設置され、そのひとつである内海聖史さんの作品「あたらしい水」も存在感を放っている。

2017年春にオープンしたGINZA SIXも空間と一体化したアート作品が話題となり、多くのメディアが取り上げた。堂本右美さんの油彩画もそのひとつ。買い物客でにぎわうエリアから少し離れたところに設置され、ゆとりのある豊かな空間をアートによって演出する仕掛けだ。このように、アート作品の設置によって場の世界観やムードが醸成され、他にはない魅力的な空間を創り上げる。

アートが施設の顔となる例は、大型の複合施設に限らない。2016年秋に開業したラグジュアリーホテル、フォーシーズンズホテル京都。約800年の歴史を受け継ぐ名庭「積翠園」を擁するホテル館内には、日本人アーティストの作品が至るところにちりばめられ、訪れる人の目を楽しませている。エレベーターホールの神戸智行さんによる絵画もそのひとつだ。京都という国際的な観光都市で、ホテルというおもてなしの場においてもアートの役割を見ることができる。

企業やアワードも公共空間へ

2015年に東証一部上場を果たしたバイオ医薬品企業、ペプチドリーム株式会社の敷地内の随所では、廣瀬智央さんによる作品が企業の精神性を代弁している。設置された18点の作品は、建物の装飾として寄り添うだけではなく、次世代創薬技術を担う同社の先進性の象徴となって、見る者に雄弁に語りかける。

2007年に始まり昨年も開催された「アートアワードトーキョー丸の内2017」は、丸の内を活性化させたい企業が経済・社会・環境・文化のバランスの取れた「世界で最もインタラクション（交流）が活発な街」を目指して、芸術系大学、大学院の卒業（修了）制作を厳選して展示し、賞を授けるものだ。会場のひとつである行幸地下ギャラリーは東京駅前の丸ビルと新丸ビルをつなぐ通路で、その両脇にガラスケースを設置、日頃から作品展示を実施する。昨年は奥村彰一さんが「フランス大使館賞」など計三賞を受賞し、ここで作品が紹介された。このように学生や若手作家の手掛けた作品が公共空間で披露される機会も相次ぐ。

場所を意識し、その場ならではの表現に

そもそも街中の人々が集う場所にアートが設置されるようになったのは、ここ最近に限った話ではない。はるか昔から、ヨーロッパでは教会や広場で、日本では寺や神社で絵画や彫刻が人々の注目を集めたものである。

ところが近代を迎えて美術館が登場したこともあり、次第に芸術と宗教が離れていく。やがて20世紀後半には設置される場所を意識した作品が増え、パブリックアートという言葉も広まる。日本でこの語が使われ始めたのは1990年代の頃からである。

当時の代表例を紹介したい。1993年、広島の新空港開設に伴い、岡本敦生さんが「地球・一個の球体のために」を設置。32本の円柱は世界各地の空港などに向かって配置されている。1994年には複合施設の新宿アイランドに長澤英俊さんによる「プレアデス」がお目見えし

② 宿泊施設の概念を変えたアート

ホテルアンテルーム京都［ホテル・京都］
蜷川実花（97年 グラフィックデザイン卒業）｜16年設置
館内で展覧会も実施するホテル かつては学生寮だった建物を改修したホテルにはギャラリーもあり、館内に展示されているアート作品は購入も可。

板室温泉大黒屋［温泉旅館・栃木］
菅木志雄（68年 油画卒業）｜91年より設置開始
「保養とアートの宿」と銘打つ老舗 菅さんのみならず、この旅館は若手アーティストたちも熱心に支援し、その作品も随所に展示されている。

撮影＝小牧寿里　提供＝札幌国際芸術祭実行委員会

札幌市立大学［学校・札幌］
毛利悠子（04年 情報デザイン卒業）｜「そよぎ またはエコー」17年設置
サウンド重視のインスタレーション 大学内の長い空中廊下で展示。北海道独特の景観と、自動演奏によるピアノや鈴、陶器の音を結びつけた。

六甲山カンツリーハウス［レジャー施設・神戸］
北川純（88年 インテリアデザイン*卒業）｜「六甲おろし器」15年設置
神戸が一望できる六甲山上で展覧会 2010年から続く「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」は公募部門もあり、現役の学生が選出されるケースもある。
＊現 環境デザイン

地域に劇的な変化を与えるアート ③

越後妻有里山現代美術館キナーレ［美術館・新潟］
開発好明（93年 大学院油画修了、情報デザイン非常勤講師）｜「モグラTV」15年設置
地下スタジオから世界に発信 国際的に活躍する蔡國強さん（右の写真）をはじめ、国内外の美術家や地元の人、観光客などと交流し、ネットで放送。

た。かつて付近に浄水場があったことから、池をベースに7つの大理石の彫刻が設置された。また、1991年に移転した東京都庁における関根伸夫さんの作品「水の神殿」と「空の台座」は、無機質なビル群の広場を安らぎの空間へと昇華させた。これらの作品には共通点がある。作品が設置される場所を意識し、その場ならではの表現であることだ。現在パブリックアートの担う役割が増しているのは、この特徴を生かしていることも大きい。

アートを施設の装飾に用いるのではなく、アートの存在そのものを施設の個性として打ち出すところが増えてきた。ここでは、宿泊施設の例を見てみよう。

アートを経営の軸に据える新たな試み

栃木県の板室温泉大黒屋は、室町時代から続く老舗である。屋内外の至るところに現代美術家の菅木志雄さんの作品があり、敷地内に氏の個人美術館を置く。この老舗旅館と現代アートの融合という大胆な試みでみごと経営再建を果たし、メセナアワード2005で「アートスタイル経営賞」を受賞したことでも知られる。さらに若手アーティストの育成にも積極的だ。

一方、ホテル アンテルーム 京都はアーティストが手掛けた客室で話題。蜷川実花さんによる一室は、まるごと蜷川さんの作品空間になっている。また、ギャラリーもあってクリエイターに開放的で、大黒屋と同様に多方面からアートを支える。こうした次世代育成や発表の場づくりは宿泊施設に限った話ではなく、新しい価値観を求める街や企業が絶えない。

芸術祭による大規模な町おこし

やがて21世紀を迎えると、日本各地で芸術祭が盛んに行われるようになる。まさにパブリックアートの特性である、「その場ならではの表現」の発揮だ。開催地の景観などを反映した作品は、当然ながらその場に足を運ばないと鑑賞できない。その結果、観光を兼ねた来場者が多く訪れ、地域経済を活性化。経済産業省の後押しも手伝って、芸術祭が急増した次第だ。

単に観光客が増えただけでなく、「瀬戸内国際芸術祭2013」の会場のひとつとなった直島町では、首都圏から若い世代が移住し、年2%強の人口減少率が1%程度にまで改善。約107万人の来場者による経済波及効果は約132億円に上るなど、まさにアートが町おこしの主役として重要な役割を担った例もある。（文化庁「文化芸術資源を活用した経済活性化」より）

先駆けは2000年開始の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」。この芸術祭では恒久設置される作品も多く、後にさまざまな芸術祭で常連となる開発好明さんの「モグラTV」もそのひとつ。

また、都市の公共空間で展開された「札幌国際芸術祭2017」で、毛利悠子さんが「そよぎ またはエコー」を発表。北海道特有の景色と共に展示した。

この二人は国内の芸術祭のみならず、海外での活動も活発である。毛利さんは2016年、英国の美術誌『Apollo』で「40 Under 40：アジア太平洋地域で最も影響力のある40歳以下の40人」に選出されたほど。

一方、芸術祭の中には公募部門のある例もあり、そのひとつが「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」だ。2015年には北川純さんが「六甲おろし器」を発表、2部門全作品が対象の「六甲ミーツ・アート大賞」で準グランプリに輝いた。

このように、近年の美術動向を追うと、アートの担う役割が社会の多分野に広がり、ビジネスや地域経済をけん引する例も増えてきたことが分かる。成熟し閉塞感のある現代社会において、今後こうしたアートを求める声の高まりが予測される中、卒業生たちの作品が、さらに世界に広がることを期待したい。

学生時代から今に繋がる表現のチカラ

枠を超えて活躍する多摩美卒アーティストたち

専攻した学科の枠を超えて活躍するアーティストたちがいます。柔軟な表現力で異分野に挑み、時にジャンルを切り拓いて多彩な可能性を体現している彼らは、多摩美時代にどんな学びを経て今に至ったのでしょうか。次々と話題作を生み出し注目を集める卒業生たちを紹介します。

岡崎能士

97年 彫刻卒業

>>>漫画家、イラストレーター

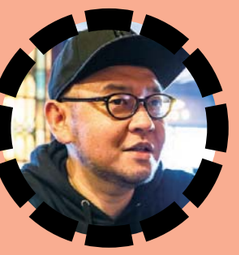
イラストをメインに、マンガ、キャラクターデザインなど、さまざまな分野で活躍。1998年に自費出版したマンガ『アフロサムライ』が、2007年に海外でアニメ化され話題に。ドラマ『踊る大捜査線』のマスコットキャラクター制作、アニメ『サマーウォーズ』のアバターデザインなど、国内外のさまざまなメディアで活躍。

©2006 岡崎能士・GONZO

コンセプト勝負のスタイルは在学中に身に付いた

僕は現代彫刻やアートに興味があり、3年では素材にとらわれない“なんでもあり”な諸材料を選択しました。材料が自由なだけに、コンセプト勝負。作品を作る前に先生にプレゼンをし、「こういうコンセプトだからこうだ」「それはなぜ」といった議論を重ねる。さらに同級生や先輩らと「お前のコンセプトは違う」などと意見し合う。理論派で頭がいい先輩にはコテンパンにされました。今思えば、この過程の全てが濃い学びでしたね。常に新しい考え方に気付かされ、ニュースを見るにしても見方が変わりました。今も同様に、僕のアニメキャラクター作りはコンセプトを考えるところから始まります。多くのデザイナーは形状からキャラ作りに入ると思いますが、僕は順序が逆で、まず意味が先にないと気持ちが悪い。考えるときも、あと三段階掘り下げます。「ここはこうだ。じゃあこうしよう。では、なぜこうなんだ?」と。これも、多摩美で身に付いたことですね。

多摩美は、いい意味で“ほったらかし”。自主的に動くことが前提ですが、たとえ専攻以外のことでも自由にやれる環境が整っていました。僕も、現代美術を志す一方で、イラストレーターとして活躍している人に憧れ「イラストで稼ぎながら作品を作っていきたいな」と夢見たのが今に繋がっていますが(笑)、でも、だからこそ他の分野でも活躍できる卒業生が多いんじゃないかな。



仮にアニメ業界に就職したいのなら、大学以外にもいろんな道があります。例えば専門学校なら最短距離で技術が身に付くでしょう。でも僕の場合、思考力やものの見方、人脈など、単に技術だけではない部分が今すごく役にたっています。最近はイラストも3Dの仕事が増えていて、改めて、彫刻で培った立体を捉える目が生かせるときがきました(笑)。たとえ直接的ではないように見えても、きっと繋がっているんです。

後輩たちへ

自分が目指す以外のもの、例えば彫刻家になりたいなら音楽や映画など彫刻以外のことにも積極的に興味を持って、視野を広げた方が良いと思います。将来は先が見えないからこそ面白いはず。純粋にやりたいという思いがあれば、きっとそれが自分の軸となり持ち味となって、将来に繋がっていくことでしょう。

「ニンジャバットマン(米題:BATMAN NINJA)」
ニューヨークコミコン発表時に公開したイメージイラスト。
監督水崎淳平氏、脚本中島かずき氏で、岡崎さんがキャラクターデザインを手掛けるアニメ映画。2018年劇場公開予定。
BATMAN and all related characters and elements © & ™ DC Comics. ©2018 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.

「SAMURAI NOODLES」日清食品ホールディングス(株)
原画・キャラクターデザインを担当。日清食品グループのウェブサイトで公開中。
同作品のコンセプトをベースにした世界初の「ハードボイルドコミック社史」が60周年を迎える2018年夏に発刊予定。

資生堂 ウェブムービー「High School Girl?メーク女子高生のヒミツ」「女子高校生だと思っていたら、実は全員女装した男子だった」という驚きの展開で、公開一ヶ月で800万再生を記録。世界三大広告祭全てでゴールドを受賞。

「GRAVITY DAZE 2 GRAVITY CAT 重力的眩暈子猫」
乃木坂46・伊藤万理華さんと子猫が無重力空間で大パニック! その世界観と大掛かりな撮影セットが話題となった。カンヌ国際広告祭、Clio Awards、One Showの世界三大広告祭全てでゴールドを受賞。

『星ガ丘ワンダーランド』初の映画監督作品。小さな遊園地がある田舎を舞台に、母の死から導かれる家族の謎を追ったヒューマンドラマ・ミステリー。主演中村倫也、新井浩文、木村佳乃・菅田将暉・佐々木希・杏ほか豪華キャストがそろう。
©2017「星ガ丘ワンダーランド」製作委員会

柳沢翔

05年 油画卒業

>>>映像監督

絵画とアニメの技法をベースとした映像表現で、CMを中心に活動。2016年『星ガ丘ワンダーランド』で映画監督デビュー。2015年、資生堂『High School Girl?メーク女子高生のヒミツ』、任天堂『Pokémon GO』、2017年“重力猫”ムービー『GRAVITY CAT』など、手掛けた作品はネット動画再生数でも話題に。

社会と繋がることの重要性を痛感

「僕は作品を、誰にどう見られたいのだろう?」。在学中、そんなモヤモヤを現代美術家・村上隆さんを招いての講義でぶつけたことがひとつの転機となりました。「社会と繋がり、自分の価値を理解すべき。作品は、ちゃんと“商品”にならなければ」と言われ、衝撃を受けたのです。勧められて村上さん主催のアートコンペ『GEISAI』に参加したのですが、初回はまったく相手にされず悔しくて。でも毎年出展をするうちに、人の目にとまるにはそれなりの計算が必要だということが分かってきて、3回目で銀賞を受賞したとき初めて“社会的価値がある作品”になったことを実感できました。さらに、「もっと外と繋がりたい。同世代の人たちに作品を見てほしい」という思いから、当時ヒップホップやグラフィティ(壁などに描かれる落書き風アート)にはまっていたこともあり、大学の仲間とクラブでライブペインティング(描く過程を見せるパフォーマンス)を始めました。すると大勢の人にもてはやされるだけでなく(笑)、学内外に仲間の輪が広がっていきました。うれしかったですね。

そうした活動を通して、やがて動画への興味が強まった僕は、卒業後はCM監督を目指して就職し、フリーランスとなって今に至ります。映像監督としての僕の強みは、やはり油画で学んだ基礎があり絵が描けることでしょうか。同業界には絵コンテを描けない監督も多いのですが、彼らはその代わり、スタッフの技術を最大限に引き出す能力に長けている。対して僕は、なんでも自分でやっちゃえ、みたいな自主制作スタイル(笑)。双方に利点があるとは思いますが、そんな僕のスタイルを評価し集まってくれる人たちに助けられながら活動を続けています。また、作品作りのために、多摩美の繋がりで在学生に協力してもらうこともよくあります。卒業後にこのような交流が持てることも、多摩美ならではの良さですね。

後輩たちへ

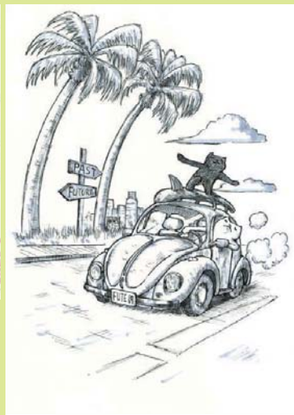
モノを作り表現する以上、社会と繋がっていた方がいい。そして自分の作品の価値というものを意識することが大切です。絵は年を取ってからでも描けますが、若いうちでないと学べないことをやった方が得(笑)。僕が一度就職したのも、貴重な体験でした。今この時でしかできないことを精一杯経験してください。

芦沢ムネト

04年 映像演劇卒業 >>> お笑いタレント、イラストレーター

お笑いユニット「パップコーン」のリーダーとして活躍する傍ら、2011年末よりTwitterで掲載したキャラクター「フテネコ」がたちまちリツイートされ続け話題に。特に音楽業界から支持を得て、MVやジャケット、ライブイベントのグッズなど多くのコラボデザインを手掛ける。現在、TOKYO FM系ラジオ「未来の鍵を握る学校 SCHOOL OF LOCK!」の教頭先生を務める。

フォロワー数15万を超える自身のTwitterで発表し続けている、ゆるくてシュールなネコキャラクター「フテネコ」。
(左から)『フテネコ』(株)学研パブリッシング／『NO NUKES ONE LOVE』イラスト／BRAHMAN MV『警醒』より



多摩美生時代、周りはとにかく尖っている人たちの集まりでした(今もそうかもしれませんが)。作品もそうですが、みんながヒリヒリしていた覚えがあります。目が鋭かった。

特にすごかったのは4年生で制作発表をした時のことです。学生の運営チームで「面白くないボタン」を作るという話になりました。これは、「映画、演劇、インスタレーション、どんなものも評価を曖昧にしてはいけない。だからどんな作品でも、つまらないと思ったものにはつまらないと言おう!」という、尖りに尖りまくった案でした。作品発表の後に評価タイムが設けられて、その場で来ているお客さんに、面白くなかったらボタンを押されてしまうわけです。とんでもなくもめました。演劇と映像は違うとか、「面白かったボタン」があった方がいいとか。いろんな論争が巻き起こり、当時はすごく何とも言えない気持ちでしたね。

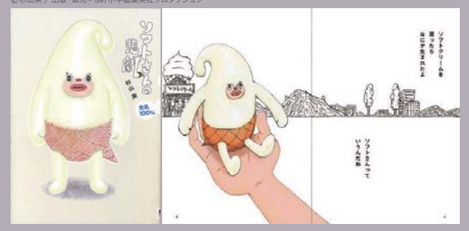
ただ、今になると「人に強く意見を言う」とか「作品を評価される」というのは結構大事なことで、あながち間違ってもいなかったなと思います。あそこまで“行ききった”発表会は、今後ないかもしれませんが(笑)。

後輩たちへ

表現者を志すなら、とにかく「続ける」ことだと思います。描き続ける、作り続ける、ダメな物を作ってしまったら、次につなげられればいいですし。飛び込んで、やってみて、考える。これを続けることでしかないんだと思います。

CD『NHKおかあさんといっしょ 最新ベスト いえ イエイ!!』 発売・販売＝(株)ポニーキャニオン
大ヒット曲『いえ イエイ!!』の歌用アニメーションを制作し、CDジャケットにもイラストが採用された

海外でも公開され高い評価を得たショートアニメーションの絵本版『ソフトさんの悲劇 生乳100%』
©杉山実／出版・販売＝(株)小学館集英社プロダクション



DVD『ソフトさんの悲劇』
©杉山実／発売・販売＝(株)ポニーキャニオン

在学中から版画、マンガ、アニメーションなど、さまざまな制作活動を行う。銅版画の作品では自己の世界観を発見する。1997年第9回グラフィックアート「3.3㎡展」グランプリをはじめ、数々の賞を受賞。著書に漫画『マザー・コスモス』『ガール・デバイス』、四コマ漫画『パパ戦記』シリーズ、児童書『山田県立山田小学校』シリーズの挿絵など。

杉山実

00年 大学院版画修了 >>> 漫画家

後輩たちへ

多摩美時代を振り返ると、楽しい楽しいとあっという間に過ぎた四年間でしたが、純粋に表現に打ち込めるとても貴重な期間だったと思います。僕は卒業以来「作る」ということで暮らしてきました。良い時期も悪い時期もありますが、その時々で自分が一番面白いと思えることに打ち込むのが良いと思います。

僕は版画専攻でしたが、批評会に版画以外の作品を提出しても、先生方は面白がっていろいろなアドバイスをしてくださいました。多摩美の自由な校風が良かったです。

銅版画のコースでは、制作に使用する道具やインクなど画材を自作する授業が印象深かったです。臭くてハードな内容もありましたが、それまで当たり前のように買って使っていた画材や道具を一から作るという体験は、「画材を含めて表現である」ということに気付かせてもらいました。

設備面においても、版画は専用の制作スペースが確保されているのが本当に素晴らしいと思いました。学校に自分の居場所がしっかりあるので、自分の家のような気分でいつでも制作できます。何より僕のようなあまり社交的でない人間でも、いつの間にか仲間ができました。大学時代の友人は今でも大切な仲間です。

『夢眠ねむ×蜷川実花 peppermint』より、夢眠さんがプロデュースした“たぬきゅん”グッズに囲まれる1ページ。
2017年7月には「たぬきゅんエキスポ2017」が開催され、多方面に活躍中の多摩美卒クリエイターらも参加した。

夢眠ねむ

情報デザイン卒業 >>> アイドル

蜷川氏(P6)撮影による『夢眠ねむ×蜷川実花 peppermint(でんぱ組.incアートブックコレクション6)』(©蜷川実花・小学館)

ライブイベントスペース「秋葉原ディアステージ」での活動を経て「でんぱ組.inc」メンバーに加入(2009年〜)。グッズデザインやプロデュース、映像監督、コラム執筆などジャンルに関係なくカルチャーを結ぶポップアイコンとして活躍の幅を広げている。2016年、出身地である三重県の観光大使に就任。

「卒業制作は一生ついてまわる」という言葉を聞いたことがあったのですが、私はまさにそうでした。メディア芸術を学んだおかげで「メディアとは何か?」を突き詰めて考え、私はあらゆるメディアを乗りこなすという手法を選んで、在学中にアイドルになりました。私の表現を、担当教授が偏見なく作品と認めてくださったのがありがたかったです。講評では、作品の前にプレゼンをする際の“声”も評価していただくことが多かったので、それも今の活動への自信に繋がっていたかもしれません。

そういえば卒業後、お仕事で会う方の多摩美率の高さにびっくりしました。多摩美で良かったなぁと思う瞬間のひとつです。

後輩たちへ

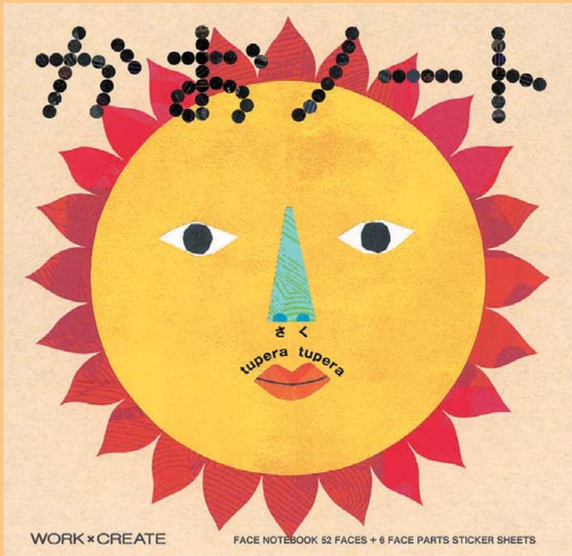
いかに在学中に、外に向けてガシガシ活動するかはとても重要なことだと思います。課題をやりつつ、遊びつつ、本当に自分がやっていきたいことに対して全力で熱を注いでください。収穫できるのはいつか分からないけど、とにかく種をまいておくこと。今のうちにがむしゃらに勉強して失敗して恥かいて、それでも信念を貫いて“卒業後の自分”のために頑張ってください!

結成15周年となる2017年に開催した
「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」

designed by nakata design office
photo by ryumon kagioka

絵本『しろくまのパンツ』
出版＝(株)ブロンズ新社

福笑いのように楽しめることで人気シリーズとなった、『かおノート』 出版＝コクヨ(株)



私は、在学中から学科の先輩のファッションブランドでアシスタントをさせてもらっていました。学校の課題もある中忙しい毎日でしたが、プロの世界に触れて積んだその経験が大きな刺激となり、「自分も表現者としてモノを作って生きて行きたい!」と発起したことが今に繋がっています。現在は絵本やイラストの仕事だけではなく、空間ディレクションやファッションブランドとのコラボ企画など活動の幅が広がっていますが、多摩美の染織デザイン*時代に学んだバランス感覚が今に生きていると感じています。 *現 テキスタイルデザイン

後輩たちへ

もし将来に悩みや不安を抱いている人がいたら、「考えるよりもまず、何か作って、外に発表してみて」と伝えたいです。感想が聞けたり、後の財産となるような人との出会いがあったりと、小さな1歩でも必ず次に繋がります。若さ故の自信も大事なこと。行動さえ起こせば、いろんな可能性が広がりますよ。

tupera tupera 中川敦子

亀山達矢氏とのユニットtupera tupera(ツペラ ツペラ)にて活動(2002年〜)。絵本やイラストほか、舞台美術や空間デザイン、ワークショップなども手掛ける。主な著書に、『かおノート』、第18回日本絵本賞読者賞を受賞した『しろくまのパンツ』など。京都造形芸術大学 こども芸術学科 客員教授。

01年 染織デザイン卒業 >>> 絵本作家、アートディレクター

演劇舞踊デザイン学科第1期生 卒業公演レポート

東京芸術劇場シアターイーストで熱演！――卒業公演 演劇『大工』

2014年新設の**演劇舞踊デザイン学科第１期生演劇卒業公演**が、2017年12月23日～25日に計６公演、東京芸術劇場シアターイーストにて上演されました。作・演出は**柴幸男講師**。昨年度の上演制作実習のために書き下ろした『大工』に新たにキャストが追加され、卒業公演として再演したものです。キャストは**演劇舞踊コース**、舞台美術・照明・衣裳デザインは**劇場美術デザインコースの４年生**が担当。新設学科の１期生公演ということもあって学外からも高い関心が寄せられ、全公演ともほぼ満席となりました。演技はもちろん、キャストの個性を引き出す衣裳、一瞬でシーンを変える照明や舞台美術など、見応え十分の舞台で観客を魅了しました。

約20分間のソロ作品を堂々披露――舞踊卒業公演

舞踊ゼミ生の卒業制作 作品公演が2018年1月13日～14日に計4回、上野毛キャンパス内の演劇舞踊スタジオで上演。各自約20分間の創作ソロ作品を披露しました。勅使川原三郎教授の下で、振付、演出、音楽などダンス作品に関わるあらゆる要素を学んできました。打楽器のリズムに呼応した激しいステップ、暗闇に浮かぶ柔らかな四肢の動きなど、次々と展開する表現に満席の観客の目が注がれ、学生自身の創作が大きな成果をもたらしました。

シェル美術賞2017 大学院生がグランプリを受賞

若手作家の登竜門「シェル美術賞 2017」において、**大学院油画１年・町田帆実さん**がグランプリを受賞しました。
昭和シェル石油株式会社が主催する本公募展は、次世代を担う若手作家が活躍するきっかけとなり、その作家活動を継続的に支援することを目的として発足したもの。46回目を迎えた今回は、多様な視点からの審査や学生支援企画など新たな取り組みが加わり、町田さんのほか、島敦彦審査員賞に**10年油画卒業・末松由華利さん**、橋爪彩審査員賞に**大学院油画１年・矢島智美さん**、今回新設された学生特別賞に**油画３年・吉岡瞳さん**が選ばれました。
また、12月に国立新美術館で開催された「シェル美術賞展 2017」では、過去受賞、入選作家の企画展「シェル美術賞アーティスト・セレクション2017」が併催され、今後の活躍が期待される若手作家として**04年油画卒業・西村有さん**と**03年大学院油画修了・竹中美幸さん**の作品が出品されました。

町田帆実「食事」

東京ミッドタウンに グランプリ受賞作品が展示

東京ミッドタウン主催「Tokyo Midtown Award2017」において、**11年工芸卒業、17年大学院博士修了・金子未弥さん**の作品「地図の沈黙を翻訳せよ」がアートコンペ部門のグランプリを獲得しました。また、デザインコンペ部門では、**14年グラフィックデザイン卒業・佐藤翔吾さん**と**同・嶋澤嘉秀さん**が参加した作品「スカートせんす」が、審査員特別賞である佐藤卓賞を受賞しました。今回で10回目を迎えた本公募展は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘と応援を目的に、アート、デザインの２部門が設けられています。
アートコンペでは、東京ミッドタウンの代表的なパブリックスペースであるプラザB1Fを舞台に、場所を生かしたサイトスペシフィックな作品を募集。2017年10月13日～11月５日の期間、“公共空間においてのアート”に向き合った受賞作品６点が展示されました。デザインコンペでは商品化の可能性を視野に入れ「TOKYO」をテーマにした作品を募集。10月13日の授賞式では、総計1489件（アートコンペ327件、デザインコンペ1162件）の応募作品から各賞が発表されました。
なお、アートコンペ部門入賞者は、今春ミッドタウンで開催されるアートイベントへの参加が予定されています。

金子未弥「地図の沈黙を翻訳せよ」

学内外30を超える場所で 今年も卒業・修了制作展はじまる

今年も各会場でさまざまな卒業・修了制作展が行われます。ぜひ足をお運びください。このほか、グループや個人による展示もあります。詳細はホームページにてご確認ください。

学内展
2017年度多摩美術大学美術学部卒業制作展・大学院修了制作展
3月21日～23日｜八王子キャンパス

大学院博士後期課程
多摩美術大学博士課程展2018｜3月7日～23日｜多摩美術大学美術館

五美大展（日本画・油画・版画・彫刻）
東京五美術大学連合卒業・修了制作展
2月22日～3月4日｜国立新美術館

日本画
日本画専攻卒業制作「むすんで、ひらいて、」
2月26日～3月3日｜アートスペース羅針盤
日本画専攻卒業制作有志展「遊色」｜2月26日～3月3日｜ギャラリー檜B・C

版画
版画専攻卒業制作展｜3月5日～10日｜文房堂ギャラリー
大学院美術研究科絵画専攻版画研究領域修了制作展2018「こうして こうなった」
3月5日～10日｜養清堂画廊

工芸
工芸学科卒業制作展「かがり」
前期2月23日～27日・後期3月1日～5日｜スパイラルガーデン
METAL ART STREET 2018
3月6日～11日｜ギャラリーTEN、White Gallery、ギャラリーKingyo

グラフィックデザイン
グラフィックデザイン学科卒業制作展2018「プロポーズ」
3月10日～11日｜恵比寿ガーデンプレイス内 ザ・ガーデンホール ザ・ガーデンルーム
大学院イラストレーションスタディーズ修了制作展2018
3月1日～7日｜Gallery5610
タマグラアニメ博2018｜3月8日～10日｜渋谷アップリンク

プロダクトデザイン
プロダクトデザイン専攻卒業制作・修了制作展2018 “What’s up？”
3月2日～4日｜BankART Studio NYK

テキスタイルデザイン
テキスタイルデザイン専攻卒業制作展2018 “BEYOND”
3月7日～11日｜スパイラルガーデン
大学院テキスタイルデザイン研究領域修了制作展2018
2月23日～25日｜代官山ヒルサイドテラス アネックスA棟

環境デザイン
環境デザイン学科卒業制作展2018「圃」｜3月2日～4日｜原宿クエストホール

情報デザイン
情報デザイン学科メディア芸術コース2017年度卒業制作展「台風のメ」
3月3日～5日｜横浜赤レンガ倉庫1号館
情報デザイン学科情報デザインコース卒業制作展 2018「Yes.」
3月9日～11日｜東京デザインセンター内ガレリアホール
大学院情報デザイン領域修士制作展2018
3月3日～5日｜YCC ヨコハマ創造都市センター 3階イベントスペース

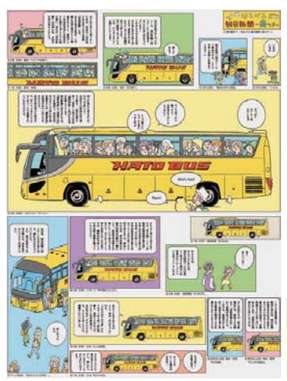
統合デザイン
統合デザイン学科第1期生卒業制作展2018 ｜1月22日～28日｜上野毛キャンパス
統合デザイン学科第1期生永井・岡室プロジェクト卒業制作展
3月16日～18日｜AXIS Gallery 六本木

演劇舞踊デザイン
演劇舞踊デザイン学科卒業制作公演「大工」
12月23日～25日｜東京芸術劇場 シアターイースト
演劇舞踊デザイン学科第1期生舞踊ゼミ卒業制作作品公演
1月13日～14日｜上野毛キャンパス 演劇舞踊スタジオ
演劇舞踊デザイン学科劇場美術デザインコース映像美術ゼミ1期生卒業制作展
1月18日～21日｜HALO恵比寿

第65回朝日広告賞で 卒業生が多数受賞

1952年に設立され、以降長きにわたり有名クリエイターたちの飛躍の契機となっている朝日広告賞。一般公募の部では、さまざまな企業から提供される課題の中からテーマを選び、設定されたサイズ規定に沿って作品を作成します。16年度においては総数1054点もの応募があり、その中から多数の多摩美卒業生が受賞しました。

準朝日広告賞＝01年グラフィックデザイン卒業・クリハラタカシさん、12年グラフィックデザイン卒業・高久麻里さんと同・金子杏菜さん
入選＝11年グラフィックデザイン卒業・橋本明花さん、12年グラフィックデザイン卒業・小暮菜月さん、14年グラフィックデザイン卒業・佐藤翔吾さんと同・嶋澤嘉秀さん
朝日新聞読者賞＝14年グラフィックデザイン卒業・宇井百合子さん



クリハラタカシ 他「はとバス」

高久麻里、金子杏菜「日比谷花壇」

FACE 2018で 在学・卒業生15名が受賞

新進作家の公募コンクールFACE 2018（損保ジャパン日本興亜美術賞）で、本学の在学生、卒業生計15名が受賞、入選しました。そのうち優秀賞を受賞した**大学院日本画２年・松本啓希さん**には、副賞50万円が贈られました。入選者展「FACE展2018」が、2月24日～3月30日の日程で「東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館」にて開催されます。

松本啓希「生命の痕跡」

優秀賞＝大学院日本画２年・松本啓希さん
審査員特別賞＝88年大学院油画修了・上田葉介さん
入選＝08年大学院日本画修了・岩井尚子さん、17年大学院油画修了・氏江樹穂さん、大学院博士２年・梶谷令さん、大学院油画１年・小池有乃さん、12年大学院日本画修了・小谷里奈さん、01年二部絵画卒業・ササキ永利子さん、10年油画卒業・末松由華利さん、大学院博士３年・ソン ヨンジュさん、11年大学院版画修了・田沼利規さん、大学院油画１年・町田帆実さん、14年大学院日本画修了・三毛あんりさん、大学院油画１年・宮山香和さん、05年大学院日本画修了・矢島史織さん

グランプリ・VOCA賞を油画卒業生が受賞

平面美術の領域で将来性ある若い作家の支援を目的に開催されている「VOCA展2018」において、グランプリとなるVOCA賞を**04年油画卒業・碓井ゆいさん**が受賞しました。同展は、全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどが40歳以下の作家を推薦し、その作家が平面作品の新作を出品するという方式。今回は34名の出品作家の中から、各賞が選出されました。「VOCA展2018」は上野の森美術館にて3月15日〜30日に開催され、碓井さんのほか、**05年大学院油画修了・會田千夏さん**、**01年彫刻卒業・髙田安規子さん**、**11年造形卒業・中山恵美子さん**、**07年大学院グラフィックデザイン修了・水江未来さん**の作品も展示されます。

碓井ゆい「our crazy red dots」

グラフィックデザイン学科長大貫教授の仕事全集が発刊

グラフィックデザイン学科長であり世界的アートディレクターとして知られる、**大貫卓也教授**の仕事全集2『Advertising is Takuya Onuki Advertising Works 1980–2010』が発刊されました。
日清カップヌードル「hungry?」、ペプシマン、Jリーグロゴ、ラフォーレ原宿、愛知万博シンボルマーク、新潮文庫Yonda?、ソフトバンク、資生堂TSUBAKIなど、社会に広く影響を与えてきた数々の仕事の詳細が、「5000点を超える図版」「カラー1504ページ（束幅8cm）」「ボツ案を含む貴重なアイデアスケッチ」「本人書き下ろし解説」というボリュームで解き明かされる、全てのクリエイター必携の一冊です。

Advertising is Takuya Onuki Advertising Works 1980-2010
大貫卓也 著
（グラフィックデザイン｜教授）
グラフィック社｜11月24日刊
10,000円＋税

受賞

NYイラストレーター協会のコンペで受賞

06年グラフィックデザイン卒業・鈴木万紀子（ペンネーム=鈴木あり）さんがNYイラストレーター協会 Society of Illustrators（SI）のコンペ「Illustrators 60」で広告部門の銀メダルを受賞しました。世界各地から応募された作品の中から400点が選ばれ、カテゴリーごとにメダリストが決定。1月2日〜27日には、受賞者、入選者による展覧会がNYアッパーイーストサイドのイラストレーション・ミュージアムで開かれました。また、毎年アメリカで出版されるイラストレーター年鑑に掲載されます。

JINSによる若手写真家コンペで卒業生が受賞

若手写真家育成プロジェクト「Magnify Photo」にて、**09年芸術卒業・三井彩紗さん**が優秀賞およびJINS賞を受賞しました。これは、アイウエアを主軸として事業を展開している株式会社ジンズの協賛の下に行われたコンペティションです。650名の応募の中から優秀賞に選出された8名の作品は、2017年9月29日〜10月1日まで開催された、一般社団法人日本芸術写真協会（FAPA）が主催する代官山フォトフェア内で展示されました。

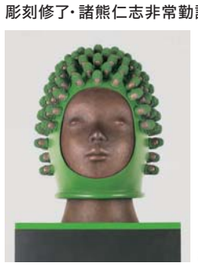
三井彩紗「portrait」

国際的なアニメ映画祭でグランプリ

2017年11月5日、北海道・新千歳空港にて第4回新千歳空港国際アニメーション映画祭の授賞式が行われ、**16年情報デザイン卒業・関口和希さん**が日本コンペティションで日本グランプリを受賞しました。本映画祭は、アニメーション研究者・土居伸彰さんがディレクターを務めるもの。作品名「死ぬほどつまらない映画」で受賞した関口さんは、「個人的な怒りが皆さんに受け入れてもらえたのかなと思い、安心しています」とコメントしました。

鋳金展で本学非常勤講師と修了生が受賞

第9回佐野ルネッサンス鋳金展において**98年大学院彫刻修了・諸熊仁志非常勤講師**が優秀賞、**79年大学院彫刻修了・松本雄治さん**が佐野市長賞を受賞しました。本展は天明鋳物のふるさと栃木県佐野市が、全国の美術作家に呼びかけ、一般公募を行っているものです。



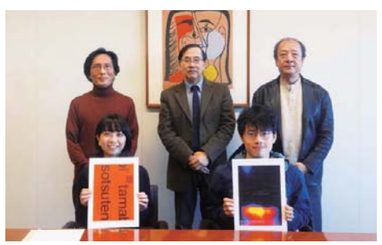
諸熊仁志「Life −巡る−」

第23回学生CGコンテストで在学生・卒業生が受賞

幅広い表現分野の登竜門となっている学生CGコンテスト。第23回では、エンターテインメント部門の優秀賞に**16年情報デザイン卒業・関口和希さん**、アート部門の審査員賞に**大学院情報デザイン2年・楊秦華さん**、**15年情報デザイン卒業・鹿野洋平さん**、同部門の評価員賞に**大学院情報デザイン2年・岳明さん**、また、パートナー賞には**大学院グラフィックデザイン2年・橋爪伸弥さん**が選ばれました。なお、関口さんは同作品で第4回 新千歳空港国際アニメーション映画祭に続く受賞となりました。

卒業・修了制作展ポスターデザインコンペ

2017年度卒業・修了制作展ポスターデザインコンペが行われ、**グラフィックデザイン4年・中村彩梨さん**が最優秀賞を受賞しました。中村さんの作品は今年の学内展のポスター、案内ハガキ、目録表紙のデザインとして採用されます。



人事異動

採用

生涯学習センター事務部
渡邊 智巳　常勤嘱託（2017年11月16日付）

トピックス

ジェイテクトと東京モーターショーのサテライト企画を開催

第45回東京モーターショー2017に合わせた2017年10月18日〜11月24日、株式会社ジェイテクトと本学とのコラボレーション企画「MOBIVERSE 未来のモビリティの可能性」がJTEKT ROOM Ginzaにて開催されました。同プロジェクトには、アート、メディア、工学など異なる分野のメンバーが集結。本学からは、**情報デザイン学科メディア芸術コースの教員2名と卒業生3名**が参加しました。自動運転や相互接続が当たり前のものとなった50年後のモビリティ社会の環境を踏まえつつ、多摩美ならではの表現方法で、ジェイテクトが持つ「曲がる技術」の未知なる可能性と、可動する宇宙「MOBIVERSE」の姿を表現しました。

赤十字子供の家 移転建て替えに貢献

児童養護施設「赤十字子供の家（日本赤十字社東京都支部運営、武蔵野市）」の敷地内建て替えに当たり、**本学の3学科・専攻**が一体となって、子どもたちの新しい生活と地域との関わりをデザイン、提案しました。約2年にわたって取り組んだ本プロジェクトは、**環境デザイン**がインテリアやランドスケープ部分を、**テキスタイルデザイン**がラグやカーテンを、**グラフィックデザイン**がロゴやサインを担当し、**各専攻の教員を中心に一部学生たち**も参加。1月に完成し、春からいよいよ子どもたちの新たな暮らしが始まります。

テキスタイルデザインとアアルト大学が交流

テキスタイルデザイン専攻の学生9名と、フィンランドのアアルト大学デザイン学科ファッション専攻の学生3名による国際交流プログラム“Discovery in Process”（展覧会とパネルディスカッション）が、2017年12月に21_21 DESIGN SIGHTギャラリー3で開催されました。また、フィンランド独立100周年を記念したアルテック主催のイベント「FIN/100」において、アアルト大学で学んだ卒業生・在学生計4名が「若きテキスタイルデザイナー達のフィンランド留学体験」をテーマに、フィンランドで学んだことや日本との違いなどを滞在中の思い出を交えながら語りました。

21_21 DESIGN SIGHTギャラリー3交流プログラム「Discovery in Process」撮影＝Keizo Kioku

故・佐藤晃一元名誉教授がADC名誉殿堂に

東京アートディレクターズクラブの2017年度HALL OF FAME（名誉殿堂）に、**故・佐藤晃一元名誉教授**が選出されました。日本的な精神性を取り込んだグラフィックデザインの探求や、本学における後進の育成など、日本の広告、デザイン界への長年にわたる貢献をたたえられての殿堂入りとなりました。

ポスター「NEW MUSIC MEDIA」

「DOMANI・明日展」に卒業生4名が参加

文化庁が行う「新進芸術家海外研修制度（旧・芸術家在外研修）」の成果発表展である「20th DOMANI・明日展」に、**99年油画卒業・雨宮庸介さん**、**05年彫刻卒業・中谷ミチコさん**、**04年彫刻卒業・盛圭太さん**、**09年大学院情報修了・やんツーさん**の4名の本学卒業生が参加します。
新進芸術家海外研修制度とは、文化庁が若手芸術家を海外に派遣し、その専門とする分野の研修を支援する制度です。美術、音楽、舞踊、演劇、映画、舞台美術等、メディア芸術の各分野を対象に1年、2年、3年、特別（80日間）、短期（20〜40日）および高校生（350日）の6種類があり、研修員は海外の大学や芸術団体で実践的な研修を行っています。2010年度からの採択結果を見ると、のべ42名の本学出身者が採択されています。国立新美術館で3月4日まで。

中谷ミチコ「あの山にカラスがいる」2017　撮影＝Hayato Wakabayashi

NIMS、早稲田大と多摩美が共同でグラデーション変化する調光ガラスを開発

プロダクトデザイン・濱田芳治准教授と**情報デザイン・久保田晃弘教授**が、国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）、早稲田大学と共同で、グラデーション変化する調光ガラスを開発しました。これは、使用者が自由に調光範囲を変えることができるため、太陽の高さに合わせて遮光範囲を変えるなど、従来の調光ガラスでは困難だった「遮光と眺望を両立する窓」として、さまざまな用途への利用が可能になると考えられます。今後は乗り物やビルの窓などへの使用に向けた実用化研究を進める予定です。

多摩美が生んだ佐賀の三陶人展

日展という場で技を磨いた**51年日本画卒業・青木龍山**、クラフトデザイナーとして生活に密着したもの作りを行った**52年工芸図案卒業・森正洋**、世界を魅了する人間国宝の**58年日本画卒業・十四代 酒井田柿右衛門**という、佐賀県に生まれ多摩美術大学で学んだ日本を代表する作家3名の作品が一堂に会する展覧会が、2017年10月24日〜11月4日に大分県立美術館で開催されました。また、第11回九州地区校友会展が同時開催され、別府中央小学校の児童を対象に「出前アート大学 器鑑賞教室」が行われました。

十四代 酒井田柿右衛門「濁手 夢文 鉢」

平成29年度永年勤続者表彰

2017年11月8日に平成29年度永年勤続者表彰式が行われ、次の4名にそれぞれ表彰状と記念品が授与されました。

曽根章メディアセンター技術職員、森由幾子図書館主任（以上35年）
情報デザイン・楠房子教授、共通教育・椹木野衣教授（以上20年）

韓国でタイポグラフィの国際的な展覧会

韓国のソウルにて開催されたタイポグラフィの国際的な展覧会「Typojanchi 2017」において、展示企画「The Process of Intuition」の構成を**13年大学院グラフィックデザイン修了・チェ ビュンロクさん**が務めました。展覧会には**グラフィックデザイン・服部一成教授**、**統合デザイン・小杉幸一非常勤講師**、大日本タイポ組合として活動する**情報デザイン・飯島秀親**、**塚田哲也両非常勤講師**、**他多数の卒業生**が招待作家として参加し、会場となったソウル駅旧駅舎に世界各国の作品と共に展示されました。

創作表現を生む場の在り方を探る

芸術人類学研究所主催『無限の縫い（nui）アートへ−しょうぶ学園×多摩美術大学・芸術人類学研究所からのアプローチ−』が開催されました。これは鹿児島にある知的障がい者施設「しょうぶ学園」の活動から、個々人の可能性が発揮される場や作品に注目して行われたものです。2017年11月22日〜12月15日、CMTEL（シムテル：素材研究室）などを会場に、「しょうぶ学園」の布の工房「ヌイ・プロジェクト」の作品展示、ドキュメンタリー映画上映会、トークセッションなどが行われました。

第20回チャリティ展覧会 小品展2017開催

多摩美術大学校友会は、毎年12月にチャリティ展覧会を開催しています。2017年も約160名の卒業生のご協力により特別価格で小作品を販売しました。収益の一部（各25%）は「奨学金基金」と「アートの分野における東日本大震災義援金」に充てられます。また、若手作家の個展開催を応援する「チャレンジ賞」が、来場者の投票により6名決定しました。

内定者報告会が八王子・上野毛両キャンパスで開催

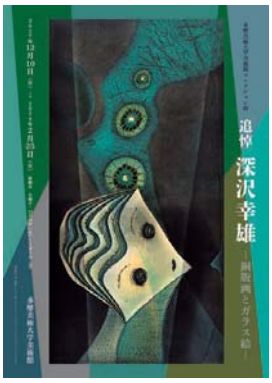
学生への就職支援として、内定者報告会が2017年11月に八王子・上野毛の両キャンパスで開催されました。広告、ゲーム、インターネット、文具、玩具、ジュエリーなどさまざまな業界に内定した学生らが、自身の就職活動のプロセスや面接での様子、就職課の利用、就活における美大生の強みなどについて話しました。また、後輩からの質問は尽きず、ポートフォリオの内容や、上野毛キャンパスの新学科1期生ならではの経験など、予定時間を大きく超えてそれに応じました。

上月財団クリエイター育成事業

コナミホールディングス株式会社創業者の運営財団、上月財団が文化助成の一環で実施している第14回クリエイター育成事業にて、**油画3年・白駒多央さん**、**同3年・西尾侑夏さん**、**同4年・黒沼大泰さん**、**情報デザイン2年・田原花楓さん**が助成対象に選出されました。この制度はデジタルアーティスト、イラストレーター、漫画家などのクリエイターを目指す若者を支援するもので、今回は応募者約200名余の中から30名が選出され、うち上記4名が本学の学生でした。対象者には年額60万円が支給されます。

多摩美術大学美術館

多摩市落合1-33-1｜10:00〜18:00｜火曜休館｜大人＝300円／大・高校生＝200円



2017年12月10日[日]
〜2018年2月25日[日]

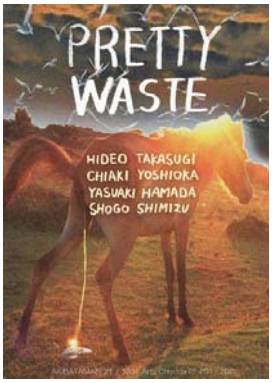
多摩美術大学美術館コレクション展
「追悼 深沢幸雄
──銅版画とガラス絵──」

深沢幸雄の没後１年を迎えるに当たり、本展では多摩美術大学美術館のコレクションとなっている銅版画と後年没頭したガラス絵を加えた約40点をご紹介。

アキバタマビ21

タマビが運営する新しい創造の場　3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手掛ける企画展を、年間約８回開催しています。

千代田区外神田6-11-14　3331 Arts Chiyoda 201・202｜12:00〜19:00（金・土は20:00まで）｜火曜休場｜入場無料



2月4日[日]〜3月11日[日]

第66回展「Pretty Waste」

たくさんの廃棄物を排出しているという現代の事実から目をそらさず、いま自分たちが作品を生み出すとはどういうことか考える。

出品作家＝清水将吾、高杉英男、濱田泰彰、吉岡知秋

3月16日[金]〜4月20日[金]

第67回展「千代田区と地震 地震ポスター支援プロジェクト イラストレーション・ポスター展」

2004年から毎年開催している「地震ポスター支援プロジェクト」を背景とした、イラストレーション・ポスターの展覧会。

出品作家＝高橋庸平、小川雄太郎、堀池真美、大町駿介、鷲尾恵一、橋村実里

展覧会・公演

中沢新一 元教授、卒業生のしりあがり寿さん他
野生展：飼いならされない感覚と思考
2017年10月20日[金]〜2018年2月4日[日]
21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー1、2

工芸｜伊藤孚 名誉教授、高橋禎彦 教授
とめどないエネルギー
ガラスをめぐる探究と表現
2017年11月23日[木・祝]〜2018年2月4日[日]
富山市ガラス美術館

相笠昌義 名誉教授、堀浩哉 名誉教授、宮崎進 名誉教授、李禹煥 名誉教授、横尾忠則 客員教授、
油画｜中村一美 教授、野田裕示 教授、村瀬恭子 教授 他
コレクションのドア、ひらきます
2017年12月16日[土]〜2018年2月12日[月・祝]
東京ステーションギャラリー

油画｜津上みゆき 非常勤講師
絵画の現在 今日のわたしに、会いにいく。
1月13日[土]〜2月25日[日]
府中市美術館

グラフィックデザイン｜上田義彦 教授
上田義彦写真展
「Forest 印象と記憶 1989-2017」
1月19日[金]〜3月25日[日]
Gallery 916

共通教育｜丸山浩司 教授
丸山浩司展
1月23日[火]〜2月4日[日]
ギャルリーヴィヴァン

情報デザイン｜谷口暁彦 講師
ハロー・ワールド
ポスト・ヒューマン時代に向けて
2月10日[土]〜5月6日[日]
水戸芸術館 現代美術ギャラリー

卒業・修了制作展の日程はP12をご覧ください

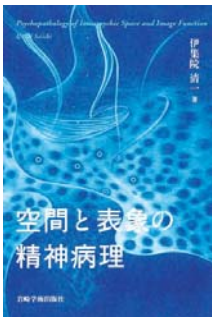
新刊

まちとミュージアムが織りなす文化
──過去から未来へ
建畠晳 共編（学長）
現代企画室｜12月1日刊｜2,000円＋税

七十人訳ギリシア語聖書
モーセ五書
秦剛平 訳（名誉教授）
講談社学術文庫
11月11日刊｜3,150円＋税

七十人訳ギリシア語聖書
十二小預言書
秦剛平 訳（名誉教授）
青土社｜10月21日刊｜3,600円＋税

日本のグラフィック100年
山形季央 編集・著
（グラフィックデザイン｜教授）
パイ インターナショナル
1月22日刊｜3,900円＋税



空間と表象の精神病理
伊集院清一 著
（共通教育｜教授）
岩崎学術出版社
6月24日刊｜3,600円＋税

版画を作ろう、版画であそぼう
丸山浩司 監修
（共通教育｜教授）
阿部出版株式会社
12月25日刊｜2,300円＋税

ケルト 再生の思想
──ハロウィンからの生命循環
鶴岡真弓 著
（芸術｜教授）
筑摩書房｜10月10日刊｜840円＋税

日高理恵子作品集
日高理恵子
（油画｜教授）
ヴァンジ彫刻庭園美術館
10月5日刊｜4,200円＋税

観察の練習
菅俊一 著
（統合デザイン｜講師）
NUMABOOKS
12月5日刊｜1,600円＋税

行動経済学まんが
ヘンテコノミクス
菅俊一 原作・共著
（統合デザイン｜講師）
マガジンハウス
11月16日刊｜1,500円＋税

「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。総合企画室（TEL＝03-3702-1168／e-mail＝news@tamabi.ac.jp）までお知らせください。

最新情報は **www.tamabi.ac.jp** をご覧ください

多摩美術大学 広報「TAMABI NEWS」 2018年2月7日発行 第26巻 第4号 通巻76号
発行＝多摩美術大学 東京都世田谷区上野毛3-15-34 電話＝03-3702-1141（代表）
編集＝総合企画室　デザイン＝村松丈彦　撮影＝中村脩（表紙）、高橋聖英、上原芳子